

C3  
1738  
26-01

熙谷平三校閱並序  
柳澤德松編輯

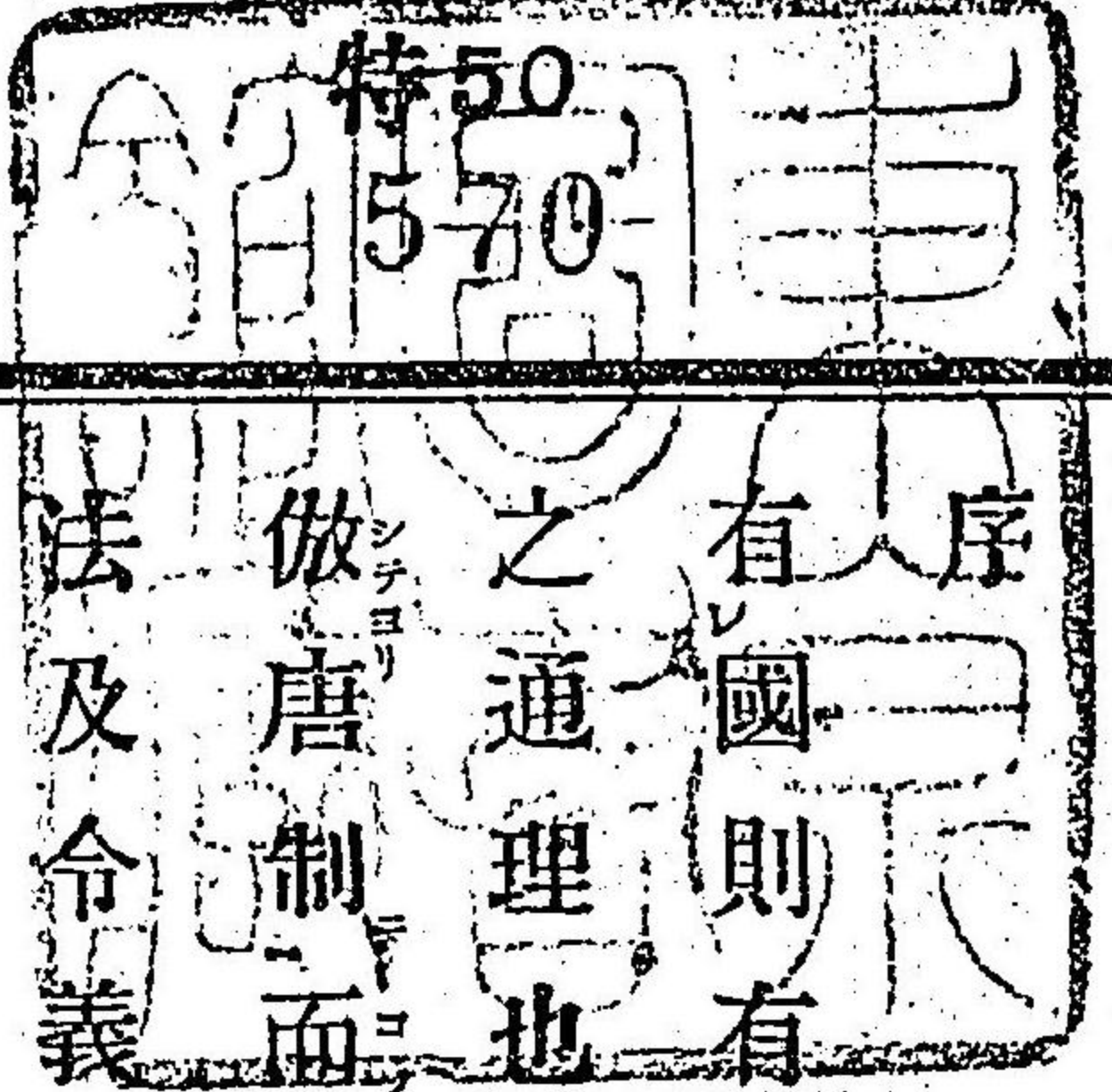
改正茨城縣違警罪人全書

明治十六年  
第八月出版

柳旦堂柳澤

C2  
1738  
26-01

Q2  
1761  
26-01



序  
有國則有法矣。有法則有國矣。是萬世不可得而易  
之通理也。本邦之有法律。上古藐焉不可攷。中古摸  
倣唐制而來。律令雜然。始顯于世。如上宮太子之憲  
法及令義解大寶律等是也。文治以還。雖羈府專權  
武斷執政。而亦非無其律令。如北條足利兩氏之貞  
永建武式目及徳川氏之科條類典類例比錄等是  
也。然非公然頒行諸於天下。有司獨得密觀焉而已。  
故動輕重出于其愛憎。寬猛亦基于其喜憂。海內人

民賴以保維其身體財產。裁如織者。殆乎七百歲矣。明治維新。百廢盡舉。三年。官頒新律綱領。六年。布改定律例。本邦釐革法律體面者。非往日之比。爾來文運駸々日進而不已。於是乎。官更斟酌折衷。歐米諸國之法律。十三年。畢改定刑法。創定治罪法。是實爲本邦未曾有之盛舉。而明治史中宜特書之事矣。昔者刑及九族。今則止其一身。昔者有磔有梟。今則不過絞首。昔者援引他條。今則無條不罰。昔者百獄密行。今則細大皆公。昔者無證拷訊。今則有罪辯護。如

斯比較對照舊新二法。則其輕重寬猛。蓋有不可同年而語者。豈明治人民之幸福。可不謂至大矣哉。是雖所基。因我聖天子之視民如傷之仁澤。而一亦不可不謂闔國人民智識進步之所致也。然則謂法律之輕重寬猛。在人民智識之深淺厚薄。誰爲不可乎。故苟爲國民者。不可一日無研磨智識。改良法律之念慮矣。抑法有三種之別。曰性法。曰慣習法。曰人定法。是也。夫人定法者。雖未必適道理者。而居其國者。必不可不服之。住其州者。必不可不從之。故苟欲圖

之改良進步者。則必不可不先知之也。日者柳澤德松氏。根據茨城縣違警罪目。傍加關本罪。須要之諸則。編纂一書。題曰改正茨城縣違警罪全書。而請序於余。是書也。雖不過一縣內之小法律。而亦居人定法中之一。故縣民之於本法。有不可不知之之關係矣。是所以氏之有公此書于世也。歟。是爲序。

明治十六年七月下澣

熊谷平三撰

例言

- 一 本書ハ茨城縣本年乙第五十三號布達改正違警罪ヲ第一ノ根據トシ編纂セリ
- 一 本書ニ刑法中ノ違警罪ヲ附加セシハ元來違警罪ナル者ハ刑法中ニ記載スル普通ノ者ト各府縣ニ於テ制定スル特別ノ者ト相待テ始テ完備ヲナス者ナレハナリ
- 一 本書ハ上下二欄ニ區畫シ普通特別ノ兩違警罪ハ之ヲ下欄ニ記シ而シテ上欄ニハ密賣淫

罰則ト治罪法中違警罪ニ關スル各本條及ヒ  
 該罪ニ關スル諸布告等ヲ掲載セリ  
 一 密賣淫罰則ヲ掲載セシハ是レ違警罪部内ノ  
 罰則ナレハナリ  
 一 治罪法中違警罪ニ關スル各本條ト該罪ニ關  
 スル諸布告等ヲ掲載セシハ以テ該罪治罪ノ  
 手續ヲ完示センカ爲ナリ

明治十六年七月下旬

編者識

乙第拾號

明治十五年二月乙第三  
 拾六號達本縣密賣淫罰  
 則左ノ通改正シ來ル三  
 月一日ヨリ實施候條此  
 旨布達候事

但明治十五年二月乙  
 第三十六號達ハ來ル  
 二月廿八日限廢止ス  
 明治十六年二月二日  
 茨城縣令人見寧  
 茨城縣密賣淫罰則

正改 茨城縣違警罪全書

熊谷平三校閱  
 柳澤德松編輯

刑法第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シ  
 タル者ハ三日以上十日以下ノ拘  
 留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾  
 五錢以下ノ科料ニ處ス  
 一 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他

第一條 本則ハ風俗ヲ  
 矯正シ健康ヲ保全ス  
 ルヲ旨トシテ密ニ賣  
 淫ヲ爲シ又ハ媒合容  
 止ヲ爲シタル者ヲ罰  
 スルモノトス

第二條 密ニ賣淫ヲ爲  
 シ及ヒ其媒合容止ヲ  
 爲シタル者ハ所管警  
 察署ニ於テ之ヲ處分  
 ス

第三條 密ニ賣淫ヲ爲

破裂スヘキ物品ヲ市街ニ運搬  
 シタル者

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他  
 破裂スヘキ物品又ハ自ラ火ヲ  
 發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ  
 又ハ販賣シタル者

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ  
 烟火其他火器ヲ玩ヒ爲ル者

シタル者ハ二日以上  
 十五日以下ノ苦使ニ  
 處シ貳圓以上拾五圓  
 以下ノ過料ヲ附加ス  
 其媒合容止ヲ爲シタ  
 ル者ハ五日以上二十  
 日以下ノ苦使ニ處シ  
 五圓以上貳拾圓以下  
 ノ過料ヲ附加ス

第四條 過料金ハ宣告  
 ノ日ヨリ十日内ニ完  
 納セシム若シ限内完

五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造  
 修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違  
 背シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セン  
 トスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ  
 ル者

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シ  
 タル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルコ

納セサル者ハ五拾錢  
 ナ一日ニ折算シ直ニ  
 之ヲ苦使ニ換フ其五  
 拾錢ニ滿タサル者ト  
 雖モ仍ホ一日ニ計算  
 ス苦使限内過料金ヲ  
 納メタル時ハ其經過  
 シタル日數ヲ扣除シ  
 テ苦使ヲ免ス

ヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他  
 所ニ移シタル者  
 九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラ  
 サル者  
 十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ媒合容止  
 ナ爲シタル者  
 ○參看 明治十四年十二月九日第  
 六十四號布告  
 密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條

本罰ニ一等又ハ二等  
 ナ減スルヲ得  
 但一等ハ本罰ノ四  
 分一ヲ以テ計算ス

治罪法 第二編

違警罪裁判所

第四十九條 治安裁判  
 所ハ違警罪裁判所ト  
 シテ其管轄地内ニ於  
 テ犯シタル違警罪ヲ  
 裁判ス

○參看 明治十四年九  
 月二十日第四  
 十八號布告

刑法治罪法中違警罪裁  
 判所ノ儀ハ當分三府五

第十項ニ明文有之候ハトモ當分ノ  
 内其取締懲罰ハ從前ノ通り東京ハ  
 警視廳其他ハ地方官へ委任ス  
 十一人ノ住居セサル家屋内ニ潛  
 伏シタル者  
 十二定リタル住居ナク平常營生  
 ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊ス  
 ル者  
 十三官許ノ地外ニ於テ私ニ埋葬

港ノ市區ヲ除クノ外府  
縣警察署又ハ警察分署  
ニテ裁判可致候條此旨  
布告候事

同年十月六日第六十  
四號布告

刑法治罪法實施ノ儀布  
告候ニ付テハ當分ノ内  
輕罪ニシテ檢察官ニ於  
テ豫審ヲ要セスト見込  
ムモノニ限リ始審裁判  
所々在ノ地ヲ除クノ外  
治安裁判所ニ於テ輕罪  
裁判所ヲ開キ其裁判ヲ  
爲スヲ得可シ此旨布  
告候事但シ本文ノ場合

シタル者

十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲

メ偽證シタル者但被告人偽證

ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第

二百拾九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シ

タル者ハ二日以上五日以下ノ拘

留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五

拾錢以下ノ科料ニ處ス

一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於

テ濫リニ火ヲ焚ク者

二水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ

防禦スヘキノ求メテ受ケ傍觀

シテ之ヲ肯セサル者

三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲

食物ヲ販賣シタル者

四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル

規則又ハ傳染病豫防規則ニ違

ニ於テ訟廷内治罪ノ手  
續ハ便宜可取計且其手  
續上ニ付テハ上訴ヲ許  
サス

第五十條 違警罪裁判

所判事ノ職務ハ治安

裁判所判事之ヲ行フ

判事差支アル時ハ判

事補其職務ヲ行フ

第五十一條 違警罪裁

判所檢察官ノ職務ハ

其裁判所々在ノ地ノ

警部之ヲ行フ

○參看 明治十四年十

月十日司法省  
甲第五號布達



新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡察ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

第五十二條 違警罪裁判所檢察官ハ毎月未決既決ノ事件表ヲ作リ輕罪裁判所檢事ニ差出スヘシ

事件表ニハ違警罪裁判所判事認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記スヘシ

第五十三條 違警罪裁判所書記ノ職務ハ治

- 背シタル者
- 五人ノ通行ス可キ場所ニアル危険ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者
- 六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシメ爲ル者
- 七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメ爲ル者
- 八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上

安裁判所書記之ヲ行

治罪法 第四編

違警罪公判

第三百二十一條 違警

罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

- 一 檢察官ノ請求ニ因リ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀
- 一 豫審判事又ハ上等ノ裁判所ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

ニ放テ爲ル者

- 九 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
  - 十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損又ハ汚瀆シ爲ル者
  - 十一 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
  - 十二 公然人ヲ罵詈嘲弄シ爲ル者
- 但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百二十二條 呼出  
狀ニハ呼出ヲ受ク可  
キ者ノ氏名職業住所  
出廷ノ日時被告事件  
及ヒ代人ヲシテ出廷  
セシムルヲ得可キ  
旨ヲ記載ス可シ若シ  
被告事件ノ記載ナキ  
場合ニ於テ被告人未  
タ其證人ヲ呼出サ、  
ル時ハ公廷ニテ其事  
件ノ告知ヲ受ケタル  
後其呼出及ヒ辯護人  
ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ  
求ムルヲ得

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シ  
タル者ハ一日以上三日以下ノ拘  
留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳  
拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ  
妨害ヲ爲シタル者  
二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シ  
タル場所ニ車馬ヲ率キ爲ル者  
三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅

狀ノ送達ト出廷トノ  
間少クトモ二日ノ猶  
豫アルヘシ  
第三百二十四條 違警  
罪裁判官ハ被告事件  
急速ヲ要スル時ハ公  
判ニ取掛ル前檢察官  
其他訴訟關係人ノ請  
求ニ因リ又ハ職權ヲ  
以テ對手人ノ立會ヲ  
要セスシテ檢證處分  
ヲ爲スコトヲ得  
第三百二十五條 證人  
ハ呼出狀ノ送達ト出  
廷トノ間少クモ二十  
四時ノ猶豫ヲ以テ之

スル者  
四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍  
ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠  
リタル者  
五 瓦礫ヲ道路家屋園圃ニ投擲シ  
タル者  
六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又  
ハ取除カサル者  
七 汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲

ヲ呼出スヘシ  
又呼出ヲ受ケスシテ  
出廷シタル者ト雖モ  
訊問前其名刺ヲ書記  
ニ差出シタル時ハ裁  
判所ニ於テ證人トシ  
テ其陳述ヲ聽ク事ヲ  
得

第三百二十六條 書記  
ハ各事件毎ニ訴訟關  
係人ノ氏名ヲ呼立ツ  
ヘシ若シ其呼立ニ應  
ジサルモ他ノ事件  
ノ裁判ヲ終リタル後  
其事件ヲ裁判ス可シ  
第三百二十七條 違警

罪裁判官ハ最初ニ被  
告人ノ氏名年齢身分  
職業住所出生ノ地ヲ  
問フ可シ  
官吏ノ作リタル證書  
又ハ申立書アル時ハ  
書記之ヲ朗讀スヘシ  
檢察官ハ被告事件ヲ  
陳述ス可シ  
第三百二十八條 違警  
罪裁判官ハ被告人ニ  
被告事件ヲ承認スル  
ヤ否ヲ訊問スヘシ  
若シ被告人代人ヲ以  
テ白狀ヲ爲スモ其  
署名捺印シタル書面

シ爲ル者

八警察ノ規則ニ違背シ工商ノ業  
ヲ爲シタル者

九醫師穩婆事故ナクシテ急病人  
ノ招キニ應セサル者

十死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬  
シタル者

十一流言浮説ヲナシテ人ヲ誑惑  
シタル者

十二妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈  
禱符咒等ヲナシ人ヲ惑ハシメ  
利ヲ圖ル者  
十三私有地外ヘ濫リニ家屋牆壁  
ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者  
十四官許ヲ得スシテ路傍又ハ河  
岸ニ床店等ヲ開キタル者  
十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ  
厠場等ヲ毀損シタル者

チ差出スヘシ  
 第三百二十九條 被告  
 人ノ白狀アリタルキ  
 ハ他ノ證據ヲ差出ス  
 コ及ハス但裁判所ニ  
 於テハ檢察官民事原  
 告人ノ請求ニ因リ又  
 ハ職權ヲ以テ之ヲ差  
 出サシムル事ヲ得  
 若シ白狀ナキ時ハ原  
 被ノ證人ヲ訊問シ共  
 他證據アルキハ之ヲ  
 差出ス可シ  
 第三百三十條 檢察官  
 ハ法律ノ適用ニ付キ  
 意見ヲ陳述ス可シ

十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示  
 シタル通行禁止及ヒ指道標ノ  
 類ヲ毀棄汚損シタル者  
 第四百貳拾八條 左ノ諸件ヲ犯シ  
 タル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ  
 十錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス  
 一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品  
 ヲ定價以上ニ販賣シタル者  
 二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定

民事原告人ハ被告事  
 件ヲ證明シ及ヒ要償  
 ニ付キ意見ヲ陳述ス  
 可シ  
 被告人民事擔當人又  
 ハ其代人ハ答辯ヲ爲  
 ス可シ  
 第三百三十一條 呼出  
 ナ受ケタル被告人民  
 事擔當人又ハ其代人  
 出廷セサルキハ檢察  
 官及ヒ民事原告人ノ  
 請求スル所ヲ聽キ闕  
 席裁判ヲ爲スヘシ  
 民事原告人出廷セサ  
 ルキ亦同シ

價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故  
 ナク通行ヲ妨ケタル者  
 三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フヘ  
 キ場所ニ於テ其定價ヲ出サス  
 シテ通行シタル者  
 四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業  
 ヲ爲シタル者  
 五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物  
 場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シ

第三百三十二條 闕席

裁判官言渡書ハ檢察官  
其他訴訟關係人ノ請  
求ニ因リ闕席シタル  
者又ハ其住所ニ之ヲ  
送達ス可シ  
闕席裁判ヲ受ケタル  
者故障ヲ爲サントス  
ルモハ言渡書ノ送達  
アリタルヨリ三日内  
ニ其中立書ヲ書記局  
ニ差出スヘシ  
第三百三十三條 裁判  
所ニ於テハ先ツ故障  
ノ申立ヲ受理ス可キ  
ヤ否ヲ判決ス可シ若

タル者

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ  
督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハ  
サル者  
七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物  
其他ノ商品ヲ羅列シタル者  
八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地  
ニ放テ又ハ牧畜シタル者  
九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業

第三百三十四條 故障

シ受理ス可キ者ト判  
決シタルモハ書記局  
リ故障アリタルト及  
ヒ其事件ヲ公判ニ付  
スヘキ日時ヲ故障ノ  
對手人ニ通知スル爲  
メ呼出狀ヲ送達スヘ  
シ但其送達ト出廷ト  
ノ間少シトモ二日ノ  
猶豫アルヘシ  
又公判ニ付スヘキ日  
時ヲ其前日ニ故障ノ  
申立人ニ報知スヘシ  
第三百三十四條 故障  
ノ申立ヲ受理シタル  
場合ニ於テハ第三百

トスル者

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸  
類ヲ解放シタル者  
十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放  
シタル者  
第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シ  
タル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ  
科料ニ處ス  
一橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ

二十六條ヨリ第三百三十條マテノ規則ニ從ヒ更ラニ裁判ヲ爲スヘシ  
其裁判ニ闕席シタル者ハ故障ヲ爲スコトヲ得ス

第三百三十五條 犯罪ノ證據充分ナラサルキハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ  
又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ  
第三百三十六條 被告

場所ニ舟筏ヲ繫キタル者  
二牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者  
三車馬ヲ並ヘ率ヘテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者  
四水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者  
五氷雪塵芥ヲ路上ニ投棄シタル者

事件違警罪ニシテ且證據充分ナルキハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ  
第三百三十七條 被告事件重罪又ハ輕罪ナルキハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ其事件ヲ輕罪裁判所檢事ニ送致スヘシ但被告人ニ對シ拘留狀ヲ發スルコトヲ得  
第三百三十八條 違警罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ

者  
六官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サル者  
七制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者  
八牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

控訴スルヲ得

○參看 明治十四年九

月第四十五號

布告

刑事裁判所ノ裁判言渡  
ニ對シ訴訟關係人ヨリ  
控訴又ハ上告ヲ爲ス者  
アルキハ原裁判所ニ於  
テ其訴訟費用ノ金額ヲ  
算定シテ之ヲ豫納セシ  
ム可シ若シ豫納スルコ  
能ハサルキハ控訴又ハ  
上告ヲ爲スヲ許サス  
一被告人ハ拘留ノ刑  
ノ言渡ヲ受ケタル  
時

九出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リ

ニ出入シタル者

十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行

シタル者

十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ

テ制止ヲ肯セサル者

十二酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ

醉臥シタル者

十三路上ノ常燈ヲ消シタル者

二民事原告人被告人

及ヒ民事擔當人ハ

要償ニ付テノ言渡

民事上治安裁判所

ノ終審ノ金額ヲ超

過シタル時

三檢察官其他訴訟關

係人ハ上ニ記載シ

タル原由アリサル

時ト雖モ管轄違越

權擬律ノ錯誤又ハ

無効ノ記載アル規

則ニ背キタル時

第三百三十九條 控訴

ヲ爲サントスル者ハ

原裁判所ノ書記局ニ

十四人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書

シタル者

十五邸宅ノ番號標札招牌賣家ノ

貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損

シタル者

十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓

ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタ

ル者

十七公園ノ規則ヲ犯シタル者

其中立書ヲ差出スヘシ但シ其申立ノ期限ハ對審裁判ニ付テハ言渡ヨリ三日内又闕席裁判ニ付故障アラサルキハ本人又ハ其住所ニ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

控訴ヲ爲スノ申立アリタルキハ書記ヨリ其旨ヲ對手人ニ通知ス可シ

第三百四十條 訴訟ニ關スル一切ノ書類ハ檢察官ヨリ控訴ヲ受

十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル處ノ違警罪ヲ犯シタルモノハ其罰則ニ從テ所斷ス

○乙第五十三號

明治十四年十二月一日乙番外并明治十五年三月三十日乙第六十一號

シ可キ裁判所ノ書記局ニ之ヲ送致ス可シ

若シ檢察官控訴ノ申立人又ハ對手人ナル時ハ控訴ヲ受クヘキ裁判所ノ檢察官ニ其意見書ヲ差出スヘシ

第三百四十一條 控訴ヲ受クヘキ裁判所ニ於テハ書記局ヨリ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

及ヒ明治十六年一月廿七日乙第九號布達本縣違警罪目別紙之通改正候條此旨布達候事

明治十六年五月四日 茨城縣令 人見寧

茨城縣違警罪

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上七日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス



證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

第三百四十二條 控訴ノ對手人ハ其裁判言渡アルマテ何時ニモ附帶ノ控訴ヲ爲スヲ得但附帶ノ控訴ハ公廷ニ於テ直チニ之ヲ申立ルヲ得

- 一 官署ニ對シ故ラニ不實ノ申告ヲナシタル者
- 二 官署ノ呼出ニ應セサル者
- 三 許可ヲ得スシテ煙火ヲ揚ケタル者
- 四 龍勢火矢又ハ風船ト唱フル火枝ヲ弄スル者
- 五 財物ヲ贖集シ富ニ類スル講會ヲナシタル者

檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ新ナル證人又ハ始審ニ於テ陳述シタル證人ヲ呼出スヲ得ス

第三百四十四條 控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ原裁判言渡ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シ更ニ裁判言渡ヲ爲ス可シ  
被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ言渡

- 六 旅人宿貸坐敷等ニ於テ屬籍氏名ヲ詐稱シタル者
- 七 届ナク外國人ヲ止宿セシメタル者
- 八 強テ合力ヲ申掛ケ又ハ諸物品ヲ押賣スル者
- 九 竹木ヲ打立又ハ簀網ノ類ヲ張り舟行水流ヲ妨害スル者
- 十 醫事規則ニ違背シタル者

スヲ得ス  
 私訴ニ付テノ控訴ノ  
 裁判ハ通常民事ノ規  
 則ニ從フ  
 第三百四十五條 第三  
 百三十一條以下ノ規  
 則ハ控訴ノ闕席裁判  
 ニ付テモ亦之ヲ適用  
 ス  
 第三百四十六條 檢察  
 官其他訴訟關係人ハ  
 違警罪事件ノ終審ノ  
 對審裁判言渡ニ對シ  
 上告ヲ爲スヲ得  
 ○參看 明治十四年九  
 月第四十四號

十一 藥商規則ニ違背シタル者  
 十二 鍼灸心得ニ違背シタル者  
 十三 小形旅客汽船取締規則ニ違  
 背シタル者  
 十四 競馬取締規則ニ違背シタル  
 者  
 第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ  
 一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ  
 又ハ貳拾錢以上壹圓以下ノ科料

布告  
 違警罪ノ審判ニ關スル  
 一切ノ手續ハ治罪法ニ  
 從フヘシト雖モ實際已  
 ムヲ得サル場合ニ於テ  
 ハ當分ノ内便宜取計ヒ  
 其裁判言渡ニ付テハ上  
 訴ヲ許サス

ニ處ス  
 一 旅人宿料理店飲食店ニ於テ婦  
 女ヲ客席ニ出シ藝妓ニ紛ハシ  
 キ業ヲナサシメ又ハ爲シタル  
 者  
 二 料理店飲食店ニ於テ届ナク他  
 人ヲ止宿セシメタル者  
 三 他人ノ漁獵具又ハ水車水碓等  
 ニ妨害シタル者

四諸干物場又ハ諸干物ニ妨害シ  
タル者

五故ヲニ人ニ汚穢物ヲ澆キシ者

六許可ヲ得スシテ路上ニ建造物  
ヲ運搬スル者

七生河豚ヲ賣買スル者

八許可ヲ得スシテ社寺ノ臨時祭  
ヲナシ又ハ神輿ヲ舁出シ佛像  
ヲ開扉ヲナシタル者

九届ナク社寺ノ恒例祭ヲ行ヒダ  
ル者

十神佛祭事ニ托シ強テ出費ヲ促  
ス者

十一堤塘又ハ畦畔ヲ毀損シタル  
者

十二鶏ヲ闘ハシムル者

十三出産又ハ流産届ヲナサ、ル  
者

十四私立學校規定ニ違背シタル者

十五藝妓取締規則ニ違背シタル者

十六馬車人力車營業人取締規則ニ違背シタル者

十七諸興行取締規則ニ違背シタル者

十八無届若クハ鑑札ヲ貸借地方

税ニ關スル商業ヲナシ又ハ該商業者諸帳簿ニ商高等ヲ明記セサル者

但警察規則ニ違背シタル者ハ其本則ニ依リ處分ス

第三條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處

ス 一制規アル徽章ニ類似ノ物品ヲ

使用スル者

二新聞紙又ハ雑誌ノ類ヲ讀賣スル者

三公然奇怪ノ粉飾ヲナシ又ハ醜體ヲ露シタル者

四粗朶工又ハ石籠ニ上リタル者

五夜十二時後歌舞音曲ヲナシタル者

六市街又ハ國道縣道ニ於テ口附

ナキ駄馬荷馬牛車ニ乘リタル者

七湯屋ヲ渡世シ男女ノ混浴ヲナサシメタル者

八他人ノ田野園圃ニ禽獸ノ死屍ヲ棄擲シタル者

改正 茨城縣違警罪全書大尾

使用スル者

二新聞紙又ハ雑誌ノ類ヲ讀賣スル者

三公然奇怪ノ粉飾ヲナシ又ハ醜體ヲ露シタル者

四粗朶工又ハ石籠ニ上リタル者

五夜十二時後歌舞音曲ヲナシタル者

六市街又ハ國道縣道ニ於テ口附

ナキ馱馬荷馬車ニ乘リタル者

七湯屋ヲ渡世シ男女ノ混浴ヲナ

サシメタル者

八他人ノ田野園圃ニ禽獸ノ死屍

ヲ棄擲シタル者

改正茨城縣違警罪全書大尾

明治十六年七月三十日御届  
八月 出版發兌 正金拾四錢

編輯兼  
出版人

茨城縣平民

柳澤德松



常陸國東茨城郡水戸  
上市泉町卅九番地柳  
澤平右衛門支店寄留

常陸土浦田宿町

柳旦堂本店

同水戸上市泉町

柳旦堂支店



發兌  
書肆

○水戸始審裁判所官員錄 壹册 近刻

右ハ水戸本廳土浦下妻兩廳及ヒ水戸土浦下妻三治安裁判所  
在勤ノ官員等級姓名御係リ等ヲ詳細ニ記載セシモノナリ

乙第七拾八號

本年五月四日乙第五十三號布達本縣違警罪目中左ノ通改正追加候條  
此旨布達候事

明治十六年七月七日

茨城縣令 人 見 寧

第二條十八項改正

十八 無届無鑑札若シハ鑑札ヲ貸借シテ地方税ニ關スル商工其他  
ノ業ヲナシ又ハ該業ヲナシテ諸帳簿ニ商金駄數等ヲ明記セ  
サル者

但警察規則ニ違背シタルモノハ其本則ニヨリ處分ス

第二條中追加

十九 酒造人心得書第十五條第十八條第十九條第二十二條第二十  
五條第二十八條第三十四條第三十八條第四十五條第四十六

條第四十七條ニ違背シタル者

二十 醫麴營業人心得書第五條但書第七條第八條第九條第十條第

十一條ニ違背シタル者

二十一 醫麴受賣營業人ニシテ販賣ノ節其石數及ヒ購求者ノ住所姓名年月日等帳簿ニ明記セサル者

第三條八項改正

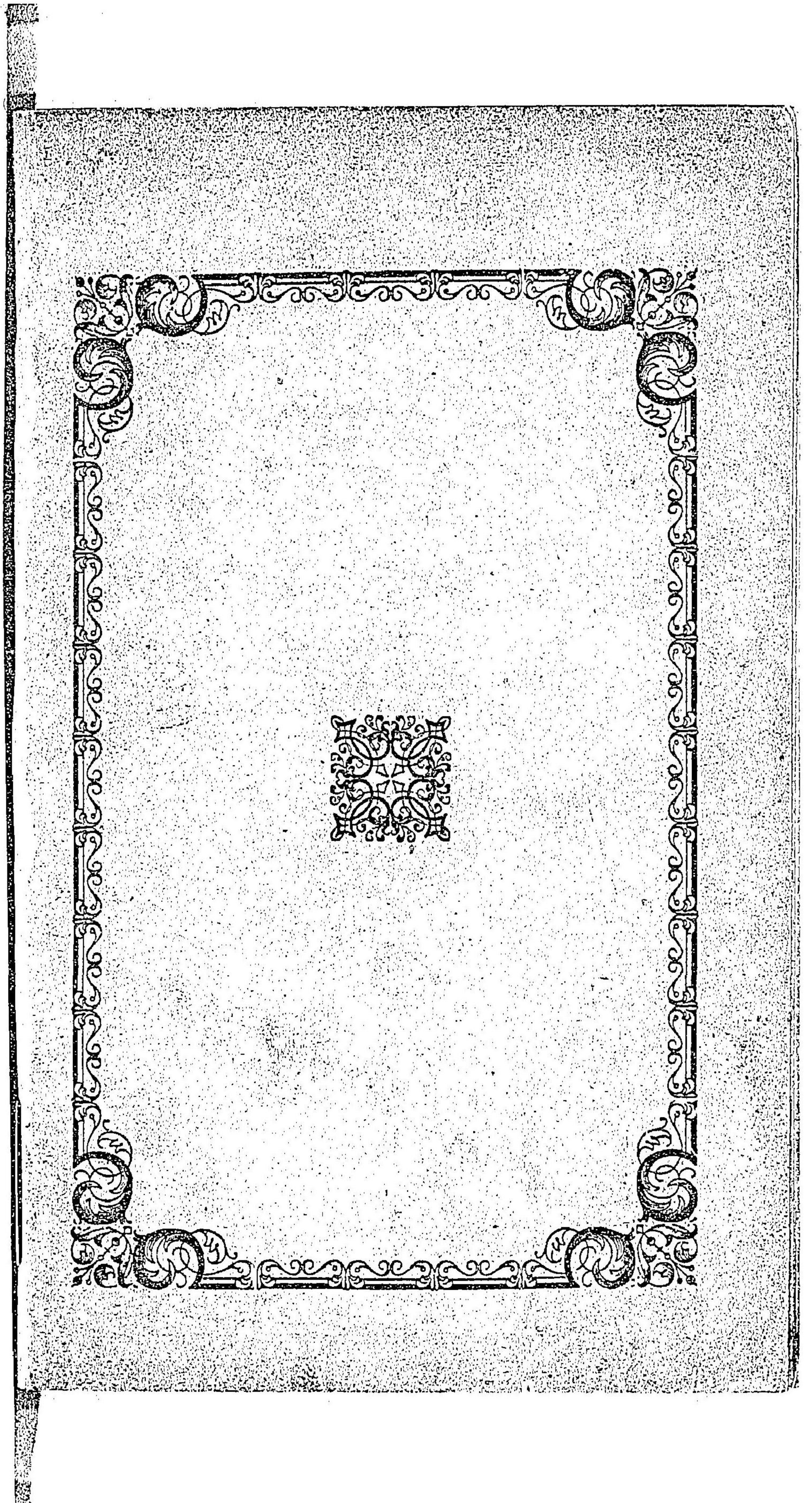
八 田野園圃又ハ溝渠下水等ニ瓦礫塵芥又ハ禽獸ノ死屍ヲ投棄シタル者

第三條追加

九 毒藥又ハ激烈氣物ヲ用ヒ魚鳥ヲ捕フル者

十 禁制ノ榜示ヲ犯シタル者





CZ  
1738  
26-01

正 改 茨 城 縣 違 警 罪 全 書

柳 沢 德 松 三 枝 校 閱 並 序  
編 輯

明 治 十 六 年  
第 八 月 出 版

柳 旦 堂 柳 澤 編

035482-000-3

CZ-1738-26-01

茨城縣違警罪全書

柳沢 徳松 / 編

M16

BBP-0018

